

# 地域との連携と子どもが口にするもの —ある町内会の小学校での餅つきの取り組みから—

金澤 妙子 (大東文化大学文学部)

## Community Partnerships and Child Care Practices on the Type of Food Children Eat : an observation of a case of Mochitsuki (mochi pounding) activity in a elementary school organized by the town community associate

Taeko KANAZAWA

### 1. はじめに

私が、昭和 61 年から継続して保育を参観している地域の公立保育園では、平成 8 年 7 月、堺市の腸管出血性大腸菌 O157 発生をきっかけに、それ以降、園内で栽培した作物や近隣の方から頂いたものを、(場合によっては保育の中で子どもと調理して) 食べることに様々なルールを課すようになった。以来、こうしたルールのもとでの保育について、その変容を追い、考え、まとめを繰り返している<sup>注1)</sup> 私は、その都度の自分のまとめがその後の保育の推移の中でみるとどうなのかは、常に気にして生活するようになった。平成 8 年の O157 発生は、すでに忘れ去られたかのように見えるし、私が関わった地域の保育者もそのことがもたらした様々な変化 (ex. 夏野菜を栽培収穫しても、そのまま食べることはよくないことである) など気にすることもなく受け入れ、それはすでに変化ではなくなって常態化している、普通のこと、である。しかし、私は、当該地域に止まらず保育界全体の動向の中でも気にして生きている。特に、園や学校という親の責任のもとを離れたところでの、子どもが口にするものへの保育者・教師の関わりとそれによる子どもの経験や育ちは気にしている。

そのような背景をもつ私が、ある保育園に伺った際、園長先生が今日は餅つきだったが、(他県で) ノロウィルスが流行っていてどうしようかと思っただが、無事終わったと話された。ちょっとした挨拶の延長のような立ち話であったが、私には聞き流して通り過ぎることのできない話として残った。12 月、町内会が町内の 2 小学校・1 幼稚園・1 保育園で餅つきをする。この地区の子どもは保育園・幼稚園～小学校卒業まで毎年餅つきを体験する。子どもは地域の中でも育っていく。小学校学習指

導要領第1章 総則<sup>1)</sup>においては、以下のように記載されている。

## 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。[第5学校運営上の留意事項]

この地区では、「地域における世代を越えた交流の機会」を設けようとしなくても、町内会という地域、異世代／年長者・高齢者が小学校（や園）にやってくる。このように地域の町内会が長年、学校・園で餅つきをすることの重要性に気付かされる。餅つきは生活の中からは廃れているように見えるが、そういう実感で、いざ気にして、たまたま訪れる先々で尋ねたり、2.で後述するように、調べてみると、日本の伝統文化として伝えようとする取り組みもあり、父母の会主催で子どもの親達がやっているところもある。地域の人が子どものためにする事柄のうち、口に入るものの安全性は様々に問題になることがあり、食育などの動きとは反対に難しい面がある。子どもの親が行事(責任)の主体となる場合ともやや異なる。閉じてしまうことのないようにと思う。(継続していくためにも)保育の場につき<sup>2)</sup>、本稿では当該町内の小学校の餅つき行事で子どもが経験していること、この取り組みの意義を考えてみたい。

## 2. 餅つきをめぐる記述や研究

土川(1932)<sup>3)</sup>の餅つき(遊戯)が示すように、伝統的食文化としての餅つきは、園児の園生活の中にも位置づいていたと考えられる。また、倉橋(1934)<sup>4)</sup>が、「生活を生活で生活へ」と言うように、昔から保育の世界は、生活そのものが学びであることから、斉藤(1986)<sup>5)</sup>の、草餅つきへのプロセスをつづった保育日誌もある。保育の中で摘んだヨモギを半分ほど掲げた白い餅の中へ入れてまた搗き始めると、みるみる白い餅が草色に変わっていく様子を以下のように報告している。この頃の宮城県でも父母は餅つき初体験である。

早番の先生とPTA役員で釜の湯を沸かす。薪木がかまどの口に赤々と燃えて、大きなせいろから、白い湯気があがっている。

次々登園する子が、めずらしそうにかまどの火を見て木片を探してきてくべたりする。「せいろ」の湯気を見て「これ何しているの」と不思議そうに見ている。

杵をもって餅をつくのはお父さんの役。一臼三升あてで四臼つくので、お父さんに交替でついてもらう。初体験のお父さん、お母さんが大多数。

お父さんの杵がペタンコと餅をつくると、園児が一斉に「よいしょ」と元気なかけ声をかけ、その間にお母さんのあやとりの水がピタピタになって、餅つきのリズムも呼吸もびったりで最高に盛上ってくる。

半分程つけた白い餅の中へ「みどりのヨモギ」を入れてまた掛声高くつきはじめる。みるみる白い餅が草色の餅にかわっていくと、「わあ、色を入れなくても草色の餅になるんだね」と子ども達はびっくりしている。お母さん達も「草餅は色を入れていると思っていたのに、自然で色が出るんですね」と感心している。これこそ本当の健康食。

出来あがった草餅を、片栗粉をいっぱいまいてある台の上に移して丸める。湯気のあがったやわらかい草餅を応援のお母さん方が次々丸めて黄な粉にまぶし、お皿に二個盛ってはお砂糖をかけ、集まってくる子ども達に渡している。

園庭の思いおもいの場所に、お父さんと子どもでくつろいで楽しそうに食べている。

以上、わが園の一端を紹介したが、町の中の幼稚園では園庭も狭く、草が足りないから、園外散歩でヨモギ摘みをしたり、「ヨモギ」は家庭の小さな庭の隅や近所の空地、道路の道端などどこにでもある野草なので、一にぎり位づつ持ち寄るのもよい。当日になると結構集って、みどりの濃い草餅が誕生するものだ。

「ヨモギ」が集まりすぎたら、冷凍のまま保存して、お正月頃の草餅は珍しくいただける。

餅つき行事は、一般に秋の米の収穫の時や、お正月の頃学校や幼稚園で行事として行われるようだが、私達は十年程前から、新入園児や新しいPTAの会員のふれあいのため、五月に行っている、春先の野外で心いっぱい開放感を味わい、約一ヶ月近く、自然の中で遊びながら、花壇から野原へと多くのことに気づき学び、人と花と草と仲よしになるというプロセスを経て……。

「白いごはんがヨモギで草色の餅になる」までの経験と観察は「草餅つき」ならではの強い感動と満足感を与えてくれる。春の野の草つみからはじめて、遊びながら親子で手づくりの草餅を食べる喜びは、最高のように思う。

親同志、子ども同志の生き生きとした話合い、笑い声、花と共に歌い、鯉のぼりと共におどり……。

秋の実りの時には、ヨモギの実りととのび切った背丈を観察するのも楽しい。

(宮城県聖光幼稚園)

また同時期の、内藤(1983)<sup>6)</sup>の随筆的な記述は、伝統的食文化とも言える餅つきの、時代における推移をよく示している。

年末の重要行事だった餅つきは、私の家の場合祖父が亡くなるとともに行われなくなった。知人に頼んでついてもらうか、商品としての餅を買うかするようになって現在に至っている。こうした変化は近隣の家々に共通してみられた現象である。私が住んでいる地区は、かつては市街地の周辺に位置し、半農村的色彩を残していたが、昭和30年代以降の住宅地化の進展と生活様式の洋風化の波に押されて、餅つきは各家庭から姿を消していった。

ところが4年前から、そのときは地区内の空地を利用して、餅つき会が行われるようになった。これに参加する家は15戸前後、隣り近所さそい合わせての参加である。きっかけはたまたま近隣社会の親睦行事に熱心で、お互いに気心の知れた人が数人いたことによっている。このグループの形成を分析してみると、その要因としては近所であることのほかに、子供を介してのつき合いがあげられる。これらリーダーたちの家庭には同じ保育園または幼稚園にスクールバスで通っている子供がいた。スクールバスの停留所で子供の送り迎えをするのは母親の役目だった。そのため停留所は同じ年頃の幼児をもつ母親たちの恰好の社交の場となった。この母親たちのつき合いが父親たちのつき合いに発展し、その中から餅つき会推進グループが生れたのである。

餅つき会の会場は当初の空地から道路をはさんだ向いのお宅の庭に変わった。空地は2年前に駐車場に転用されてしまったためである。昭和57年の餅つき会は12月26日と決まった。餅つき会では前日に地区の主婦が共同して仕込んだおでんが出る。その仕込み場には私の家の台所が毎回利用されてきた。今回も私の家が選ばれ、25日の昼間はおでんの材料の買出しが行われた。料理店から借りたという直径が50cmもある大鍋とそれをのせる大型レンジ、およびプロパンガスのボンベが持込まれた。近所の主婦4名は午後8時にわが家に集合し、家内も加わって12時まで翌日のおでんの下ごしらえを行なった。26日の餅つき会は日曜日であったにもかかわらず午前8時半から始まり、午後1時半まで続いた。参加者は子供を含めて延べ50名であった。餅つきを行うのは30才台の男性で、同じ世代の女性たちは餅米の運搬とおでん作りに従った。つき上がった餅は屋内に運び込まれ、年配の女性によつてのされていく。餅つきのための臼と杵はあるお宅から、餅米を炊く釜と蒸籠(せいろ)は別のお宅からという具合に餅つき用具は持ち合せのある家から提供された。いずれも旧農家の方々であった。当日はあいにく小雨まじりの寒い日だった。私は風邪が十分に直っていなかったので今回は杵をふり上げることは見合わせ、「見学」で通すことにした。餅米はコンクリートブロックを積み上げて作った即席の竈に薪をくべて蒸されていく。つきたてのからみ餅、あんこ餅、きなこ餅と温かいおでんが参加者に配られる。餅もおでんも食べ放題、子供たちのはしゃぐ姿がほほえましかった。屋内でのされた餅は納めた会費の額に応じて後日、参加した各戸に配られた。

このように餅つき会は近隣社会の親睦会として定着したかに見える。各家庭で餅をつくことが困難になっている現状では、餅つき会は親睦のほかに正月用お餅を共同してつくるといふ実利的意味ももっている。またそれは子供たちに米の伝統的蒸し方や餅のつき方を実地に学ばせる機会ともなっているのである。

家庭における餅つきのあり方は激変しても食育指針の影響もあるのか、保育と餅つきの関わりは完全に失われてはいないようだ。川西正子他（2006～2007）<sup>7)</sup>は、「幼児期の適切な食育は、その子どもの生涯の健康にかかわるとともに、子どもを取り巻く家族・社会の健康・健全性にもつながる」との考えのもと、食育の素材として「雑穀」に着目し、幼稚園、保育所での食育実施を試みている。その中で、大阪府下の保育所における食育の現状について、「餅つき・節分の豆まき・さつまいもの栽培とその食体験は多くの保育所で実施されていた。保育士などを対象とした質問紙調査では、雑穀を保育・食農教育に取り入れることができる可能性はある程度高いと考えられた」と報告している。小学校においても、様々な取り組みが行われていることが分かる<sup>8)</sup>。小学校での餅つきの研究を調べるために検索してみると、研究はともかく、様々な実践報告にであう（稿をあらためて考察する予定である）<sup>注2)</sup>。ただ、研究となると稀少であると感じる。

つまり、時代の移り変わりの中で、家庭の中の餅つきは廃れても、やはり必要なのではないかという声はあり続け<sup>9)</sup>、細々かもしれないが、家庭外の公民館活動や地域の交流活動の中に存在し続けていっているということなのだと考えられる。

例えば、室谷 雅美（2008）<sup>10)</sup>は、近年、子どもを取り巻く事件・事故が毎日のようにマスコミを通じて報じられている。こうしたなか、子どもたちが安心して外で遊べない状況を踏まえ、安全で安心して遊べる公民館等の社会教育施設などで子ども居場所づくりが実施されている。さらに、都市化や核家族化により子どもたちは地域の大人たちと交流する機会も少なく、日常生活の中での様々な体験も不足しているのが現状である。学校・家庭・地域が連携協力して、地域全体で子どもたちを育てていくことを目指し、子ども居場所づくりの取り組みがなされている。

そこで、地域密着型の公民館で子ども居場所づくりに対してどのような活動を行ってきたかについて明らかにすることを目的に、地域の小学生を対象に公民館に子ども居場所の活動拠点を設け、地域の大人の協力を得て、畑作りや茶道体験・お餅つきなど様々な体験活動や交流活動を実施した。結果、公民館において子どもたちの安全を確保し、学年の違う子どもと地域の大人を交えた異年齢間でのさまざまな活動を通して、年齢相互の役割や地域の素材を活用した体験活動など、週末や長期休暇を利用し、幅広い活動を実施することができた。祖父母や地域の大人から物事を教えられたり、一緒に遊んだりすることが少ない子どもたちにとって、他の世代や、多くの大人たちと活動することにより、人との繋がりもできた。また、地域の子どもに対する意識や関心の高まり、学校・家庭・地域の協働や連携を進めることもできた。

そして、もっといろいろなところで、地域における様々な交流にも一役買っていることも分かる<sup>11) 12) 13) 14)</sup>。三重県最北に位置するいなべ総合病院〔220床、診療圏人口は約71,000人〕は地域の中核病院としての役割をもっている。新築移転し、移転当初最新の医療設備、優秀なスタッフが揃っているのにも関わらず、地域の中では病院機能の理解はなかなかなされず、病院の活性化はならなかった。そこで、以前より活躍していた院内ボランティアの方にまず病院の機能を理解してもらうために「ボランティア委員会」を立ち上げ、年間2回の研修会と3回の委員会の開催をした。また、病院祭の際には、餅つきやアンケートの手伝いをしてもらい、職員と一体となって地域の人

へのアピールを行ってきた。地域の人で作るボランティアの方の地域への宣伝効果は大きなものがあり、現在外来患者数880人(移転当初750人)、入院稼働率92%(移転当初88%)と活気ある病院になってきた。その経過報告の多様な方法の中に、「3、病院祭 毎年開催する病院祭に、餅つき、アンケート聴取の手伝いやイベントコーナーへの参加など病院行事への自発的な参加を行っている」を見ることができる。「最初は20名ほどから始まったボランティア活動は、230名を超える大きな輪になり、ボランティアの人が「自分たちが支えている病院」という気持ちを持ってもらうことこそが病院活性化につながると考え、研修会、委員会、病院祭の参加とまずは病院へ足を運んでもらうこと。(略) そうしたことで徐々に「自分たちの病院」という思いが広がっていき、その思いは地域の人にも広がっていった。移転後5年目を迎えた現在、救急車搬送率、外来患者数、入院患者数、健康診断受診者数等全てにおいて右肩上がりの成績を取っており、まさしく地域とあゆむ中で病院の活性化はなされてきたと感じている」と結んでいる<sup>15)</sup>。

成田・加藤・長尾(2006)<sup>16)</sup>は、自身の勤務する東京家政大学家政学部栄養学科並びに短期大学部栄養科に在籍する学生170名を対象に、食事が多様化されるなかで、正月の雑煮として欠かすことのできない餅について、家庭における行事と餅がどのように受け継がれてきているかの摂取状況調査を行った〔調査期間は、2004年5月から9月〕。その結果の示すところは、以下のようになっている。(1) 鏡餅について：正月に鏡餅を供える家庭が82%、供えない家庭が18%であった。入手方法の内訳では、スーパーで購入が66%、家庭で作るが30%、米店・和菓子店で購入が4%である。また、鏡開き後の餅を食する家庭が75%であり、食べ方としては、汁粉など小豆を使用する料理が27%、次いで焼く(磯部巻き・あべかわ)が14%、雑煮(12%)、揚げ餅(10%)であった。その他にチーズ巻き餅、ピザ餅といった回答も少数みられた。(2) 雑煮について：100%の家庭において食されていた。餅の種類では角餅の餡なしが87%を占め、餅の加熱方法では焼いてから入れるが76%と多く、次いで茹でる(12%)、生(11%)、電子レンジ(1%)であった。(3) 餅を食する機会：正月のみが35%であり、年間を通して20回以上食する家庭も25%と多い。その餅を常備している家庭が25%、必要に応じて購入する家庭が67%であった。(4) 餅に対する嗜好・イメージ：餅が好きと回答した学生が92%と多く、好きな餅料理では、雑煮、磯部巻き、あべかわ、汁粉、納豆餅と和風料理が94%を占めた。その他に、バター海苔餅、チーズ巻き餅、ピザ餅、ピザ餅グラタン、キムチ餅、キムチ鍋などの洋風アレンジが5%みられた。学生に餅から受けるイメージ語を自由記述させると、「雑煮」、「正月」、「おいしい」が多く出現した。

山口・菊地(2007)<sup>17)</sup>は、調理済み食品の利用、外食の利用率が高くなってきている昨今、家庭での調理いわゆる内食の機会が少なくなってきていると言われている。一方では手作り料理にこだわり、食文化を継承している状況もみられると、家庭での食文化の継承について調理器具の保有状況から検討するために調査を行った〔調査期間は2006年5月から6月〕。対象者(居住地域は北海道内)は同意を得られた女子学生に、家庭での日常使用する調理器具の保有状況を記載してもらい、集計した。結果、「日常使用する調理器具の種類は182種類が挙げられた。調理器具によって所持数に差があり、どこの家庭でも複数ある器具といくつかの家庭が所持しているという器具が明

らかになった。ボウル、フライパン、まな板などごく一般的な器具は家庭で複数所持しており、ジャーレンやパスタマシンなど専門的な器具の所持もわずか見られた。炊飯器の所持数は全体の86%であり、他の方法で日常炊飯している状況が見えた。また、餅つき器やホームベーカリーの所持もあり、家庭で「餅を作る」、「パンを焼く」など手づくり料理をしており、ジンギスカン鍋の利用も見られる。少数ではあるが、食文化の視点からも好ましい状況がみられた。また家庭で使用されている調理器具について若干の知見を得た」としている。

各家庭で、杵で餅を搗くことがなくなっていることは言を俟たないが、是非はともかく、餅つき機という便利なものの販売もあつてか、完全に食生活から消えたとは言い難い状況にあることも見える<sup>18)</sup>。

そして、餅つきが園や学校のみならず、地域の交流や活性化で実を結ぶためには、健康・安全に実施されることが大前提であることは言うまでもないが、そこには、様々な危険やリスク健康被害が潜んでいることも従来からあることが認識される研究もある<sup>19) 20) 21) 22)</sup>。

### 3. 方法

A県A市の当該町内の1小学校での餅つき行事の観察（餅つきの様子、その場で聞かせていただいた子ども達の声、お手伝い・参加の母親達の声）、餅つき行事後、町内会の方々にお礼状を書くという授業の参観と子ども達の書いた手紙、校長先生にお話を伺ったこと、当初からこの餅つき行事を始めたO氏に、餅つきの前後に伺った話から考える。

観察日 2017年12月20日

### 4. この餅つきの生まれた理由と経緯、思い

この餅つきの生まれた理由と経緯を知りたいと思い、長年の知人である前々園長からこの餅つきの発端となったO氏に私の意向を伝えていただき、お話しを伺いたい旨依頼し、快諾していただいた。以下はその様子である。

—2017.5月O氏インタビュー [保育園にて現園長、前々園長同席、正味1時間] を中心に3回お会いした際の聞き取り・私の理解の確認のまとめから

・いつ、どうして始まったのか

—自分（O氏）とA氏がきっかけとなっている。もともと田んぼがあつて米を作っていた。餅つきも子どもの頃から50年近く毎年12/30にやっていたが、兄弟が独立し、親が他界しやらなくなってしまった。道具もあつたので、A氏と二人でやりだした。途中（約5年前）から、大変だろう、町内会でやることではと、町内会主催になった。この市でも公立学校・園は、この地区の子どもだけが保育園・幼稚園から小学6年生まで毎年餅つきを体験している。

・保育園と幼稚園各1園、小学校2校の子ども達全員になると経費、労力ともに大変ではないか？

—餅米は、農家で直接買うので、半俵30kg1万円くらいで、たいしたことはない。よく園長先生が恐縮されるが、子ども1人あたりにしたら何百円でしかない。恐縮されるより、喜んでもらえたらそれでいい。

・やっていたよかったこと

—「そりゃ、子ども達の笑顔」、毎年その都度もそうだが、小学生からは、卒業する時に、餅つきをしてくれたことに感謝の手紙を貰うこともあり、それがまたぐっとくる。

・注意している点

—皆の笑顔を見れることだからこそ食中毒などを絶対ださないように衛生管理・消毒には細心の注意を払っている。

・なぜやるのか

—子どもが喜ぶ。笑顔のため。加えて毎年やっていて、待っていてくれる気持ちに触れると、やめれんなーと思う。

「田んぼがあった」「ずっと家でやっていたので道具があった」といってシンプルで、O氏自身の生活経験の中に位置づいていた餅つきがなくなり、次の世代の子ども達に伝えていきたいと、A氏と2人で始めたことが、途中から町内会の活動となっていった。実施することで伝えることができ喜んでもらえることが生きがいになっていると感じた。担い手、町内会役員の方々も、わが子がこの地区の幼稚園・保育所・小学校にお世話になった時期はあるが、都市部のベッドタウン的な土地柄、自身の郷里ではなく、自分が子どもの頃、学校や園で餅つきをしていた（そのことを復活させたい）というわけではない。今の子どもに伝えたい、やってあげたいという思いで実施していた。お聞きしてみると、インタビューに先立っては、何か小難しいことを想像していた自分に気づき、インタビューの後には、余計な講釈の一切ないすっきりさに、正直やや拍子抜けするとともに、時間経過の中で納得もしたものであった。

## 5. 小学校の餅つきの様子から

5年生3クラスの合同授業「親子触れ合い餅つき大会」として、5年生がついた餅を1、2年生に振る舞うという形で実施された。



地域との連携と子どもが口にするもの



口に入れるものの安全に細心の注意を払う O 氏



親子で搗き方を教わって



さすが小学5年生男子の搗きっぷり



招かれた下級生、容器持参で登場



町内会メンバーの胸にぐっとくるお礼の言葉、そこはやはり幼児とは違う手応え



ちょっと照れくさいが親子で食べる嬉しさ、おいしさ、楽しさ



味をからめる

### (1) 子ども達の声

おもしろかった。(何がなんでも) 楽しい、引っ込んでいようとするよりとにかく楽しんだもの勝ち、絶対やった方がいい、と口々に行事全体を謳歌している声が聞かれた。具体的に聞いていくと、「家でやるより、つきたてのお餅が楽しい」「自分達のついたお餅の方が柔らかくておいしい」「ついた方が、普通に焼いているよりおいしい」と、みんなで搗くことの楽しさと、餅のおいしさを口にしていた。また、「きな粉が餅につくと餅と餅が合わざらないのが不思議」と言う子がいれば、「そりゃそうだよ。だって粉がかかっている」と気づきを話題にしたり、「杵、すごく重たかった」とやってみての実感、杵を餅の真ん中に当てる難しさとうまく行った時の気持ちよさを表現する子もいた。「ストレス解消になる」と言う子に、「ストレスってあるの?」と聞くと、「あるある。友達関係とかいろいろ・・・、すつとする」と話す。毎年、餅つきをやっていても、4年生までは全校の委員(5年生になると担うとのこと/金澤補足)をやっていないのでよく分からなかったが、委員になると見えるものが全然違うようで、高学年の自覚と誇らしさを感じた。

また、お母さんが来たのが嬉しい。お母さん来るっていったのに遅いなーと心配そうに待つ子も

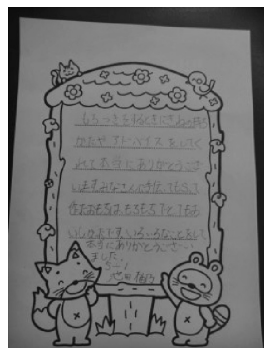
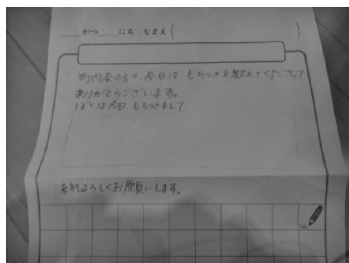
いて、親を求める心情が聞かれた。

## (2) 母親達の声

母親達はなかなか機会のないことでありがたいと歓迎し、口に入れるものの安全は、これだけ注意していれば大丈夫、去年はこれほどではなかったと驚き、不安の声はなかった。

(この時間帯) 仕事を休んで参加している母親、「(仕事はしているが、自分の仕事は大したことではない。それより) 子どものことにはできるだけ参加したいと思っている」と、日頃の方針を話してくれた方もいた。町内会の方々に教えてもらって親子で餅を搗くのは親子ともになれない体験で、子どもは少し照れながらも嬉しそうで、こうした親との触れ合いをうるさく感じる手前の年齢で、親子で触れ合ういい機会になっていて、「親子触れ合い餅つき」の目的を果たしていた。

## 6. 餅つき直後の授業参観から



〈教室、授業風景〉

町内会の方が毎年グッとくるというお礼状

餅つき終了後11:50～、授業でお礼の手紙を書くのを参観した。以下は、小学校のご厚意で見せて頂いた、あるクラスの子供達のお礼の手紙である[太文字筆者]。クラス担任から、文章の校正、誤字脱字などのチェックが入る前の、餅つき行事直後のものである。そのまま示すことにする。

1. もちつきをするときに、きねの持ちかたやアドバイスをしてくれて本当にありがとうございます。みなさんに手伝ってもらって作ったおもちも、もちもちでとてもおいしかったです。いろいろなことをして本当にありがとうございました。女子

2. 今日はもちつき会を準備したり手つだったりしてくださりありがとうございました。ぼくは久しぶりにもちをつくので、きねでもちをつくとき、強くつけなくて大変だったけど、1回だけ上手につけました。その時は、とても嬉しかったです。ありがとうございます。男子

3. 今日はもちつきの事を教えてくださり、ありがとうございます。きねでおもちをつくのは、おもちにあたらなく難しかったけれど、めずらしい体験ができてうれしかったです。今日は楽しかったので、来年もぜひ来てください。女子

4. 私がもちをつく時に、「右手が上だよ」などとやさしく声をかけてくださりありがとうございました。年に一度もやらないもちつきをわざわざ〇小学校へきて、もちつきのじゅんぴやり方を教えてくれて感謝しています。すごく楽しくていい思い出になりました。女子

5. 今日、もちつき会で、いろいろな方にお世話になりました。とくにもちをつく時に、あまりつけなくて、後から強くついていただけで、ものすごくおいしいおもちができました。ぜひ来年もよろしくお願ひします。女子

6. ぼくがもちつきをして思った事は、もちを、つくときに、きねがすごく重かったです。でも、もちの中心にたたくと、すごくいい音がしてうれしかったです。そして、もちつ(以下 不明)

7. もちつきでは、ありがとうございました。ぼくはやるのかわからない。もらってうれしかったです。

8. 今日はありがとうございました。朝、早くから準備してくれてとてもありがたいです。ついた時は新かくかく(新感覚のことか?/金澤補足)でした。ペチャツとしていてちょっとびっくりでした。やってみないと分からないので、とてもうれしかったです。

9. 朝早くから学校へ来てくれて私達のために準備してくださってありがとうございました。もち米から餅にしたことがなかったので、どんどんもち米からもちになっていっているのを見てすごいな、おもしろいなと思いました。校長先生（以下 不明）

10. もちつき会に来てくださって、ありがとうございました。おもちはもちもちで、おもちをつくときにすごく伸びて、力いっぱいおもちをつくことができ、とても和の文化を感じることができました。ありがとうございました。女子

11. 今日はもちつきを教えていただきありがとうございました。私は、きねを使ってもちつきをするのは初めてなので、とても楽しみでした。ボランティアのみなさんがやっている、とてもかんたんにやっているようでしたが、私がじっさいにやってみると、きねがとても重くて、とてもむずかしかったです。

食べてみると、とてももちもちしていて、家で食べるおもちよりもおいしかったです。来年の5年生も楽しみにしているとおもうので、来年もよろしくお願いします。そして今日は本当にありがとうございました。女子

12. もちつき会おれいの手紙

きねのもちかた、もちをつきたいせいなどやなべなどのいろいろなじゅんびをしてくれて、もちを皆でわいわい楽しくつくることができました。ありがとうございました。またらい年よろしくおねがいします。男子

13. 今日は、朝早くから準備して下さってありがとうございました。もちをちぎるのは大変だったけれど、その分、おいしかったです。今日のもちつき会を通して、和の文化を受け継いでいけたらいいなと思っています。女子

14. もちをつくとき、きねにもちがついたときに、もちがはね返ってくる感じがおもしろくて楽しかったです。わざわざ私たちのために朝から準備してくださり、ありがとうございました。来年の五年生もよろしくお願いします。女子

15. 今日は、もちつきをさしていただいてありがとうございました。もちつきは、なかなかできないめずらしいことで大変なことなのに、この学校のためにもちつきをさしていただいてありがとうございました。男子

16. 今日はもちつき会で、いろいろなことを教えていただきありがとうございました。ぼくは

最初どきどきしていたけれど、やさしく「きねはこうもって、右足を前に出して」と声をかけていただいてうれしかったです。おもちをつく時は、「うまい」といっていただいて、とてもほめていただいてうれしかったし、おもちをつくきかいはめったにないので、きちょうんことをさせていただいてありがとうございました。おもちはとてももちもちしていて、おいしかったです。またきかいがあれば、おもちをついてみたいです。本当にありがとうございました。

男子

17. 今日もちつき会をして、もちをきねでたたいた時ピチャッと良い音がして朝早くから準備してくださってしてくれたことを感じました。みんなで仲良く味つけや数える、ちぎるなどのさぎょうがトラブル無くできたのでうれしかったです。男子

18. 今日はもちつきを教えてくださいまして、ありがとうございました。町内会のみなさんが準備をしたり、分かりやすいように教えてくださいましておかげで、わたしたちが楽しくもちをつくことができました。はじめて持つきねは、ちょっと重くて不安だったけれど、町内会のみなさんの説明が分かりやすかったので、ちゃんともちをつけました。本当にありがとうございました。女子

19. 今日は、いろいろと教えてくださいましてありがとうございました。私は、もちをついたとき、こんなふうにもちをつくんだなと思いながらみんながつくのをみていました。私がつくときになって、みんなみたいにつくと思いながらわくわくドキドキしながらつきました。今日は、朝早くからじゅんびなどをしてくださってありがとうございました。また来年もよろしく願います。女子

20. もちつき会に協力してくださってありがとうございます。私がちいさいときに家でもちつきわしていました。けれど4年前からやらなくなり今回久しぶりに行いました。久しぶりのもちをつく作業、味をつける作業をしてとてもなつかしく思えました。真中につくことがとてもむずかしく大変でしたがみんなで協力して楽しくできました。本当にありがとうございました。来年からもよろしく願います。女子

21. ぼく達がまだねむっている時に朝早く準備をしてくださって、ありがとうございます。もちをついた時に、意外ときねがかかるくてやりやすいと感じました。みんなと楽しくいっぱいもちを食べてうれしかったことが思い出に残りました。○小学校に来てくださってありがとうございました。男子

22. 今回はきちょうなもちつきの体験をさせていただいて本当にありがとうございました。今回ぼくが感じたことは2つあります。まずは、ぼくたちがもちつきをする前に、ボランティアの方がもちをついているときにボランティアの方がとても手なれた感じでもちをついていたので、「すごいな、どうやったらあんなふうにもちつきができるんだろう。」と思いました。もう1つは、ぼくたちにもちのつき方を教えてくれたときです。きねの持ち方をやさしく教えてくださいましたので、とてももちをつきやすかったです。今回のもちつきの体験はとても思い出に残りました。これからもよろしく願います。本当にありがとうございました。男子

23. 今回は5年生のため準備をしてくださり、本当にありがとうございました。もちをつくの**は、今回が始めてだったのできねを持ったときとても重たい**と思いました。今回はきちょうなたいけんを本当にありがとうございました。女子

24. めずらしい体験ありがとうございました。ぼくはきねをもった時、けっこう重いなあつき方にもコツがあるんだなと思いました。もちをついていた時いきよよくもちの**真中**についてらすごくたっせい感が出てとても楽しかったです。楽しい体験をありがとうございました。男子

25. 今日はもちつきをさせてくださりありがとうございました。今日たべたおもちはつぶつぶしてなくてやわらかかったのでおいしかったです。味付けを自分たちでするのははじめてだったのでいいけいけんになったなと思いました。女子

26. もちつき会で手伝っていただき、ありがとうございました。私は初めてもちをつきました。重くて、大変でしたが、ていねいに教えてもらい、楽しかったです。来年もよろしく願います。女子

27. もちつき会、ありがとうございました。おもちを初めてついて、ベチャッという音がなって「こんな音なるんだな」。と思ってとてびっくりしました。女子

28. 今日は、おいしいおもちや準備をありがとうございました。和の文化を体験したいへんだったのがもちをついたことです。なぜかと言うと力をふりしぼってきねをふりおろさないといけなかったからです。なのできねを力いっぱいふりおろしていたので**やっぱりすごい**なと思いました。本当に今日はありがとうございました。男子

29. ぼくが思い出に残ったのは、もちを、つくことです。もちをつくときに、1年生や2年生

おいしくたべてくれるのがしんぱいでした。だけど、おいしくたべてくれたが思い出に残りました。おありがとうございます。おしえてくれてありがとうございます。男子

30. 今日はおもちつきをさせてくださりありがとうございました。今日たべたおもちはつぶつぶしてなくてやわらかかったのでおいしかったです。味つけを自分たちでするのははじめてだったので いたいけんになったなと思いました。女子

先生から教わった「和の文化」を意識した記述も垣間見え、年長者への手紙、しかもお礼状を書くという緊張感の中に、町内会の方々への思いが綴られていた。

そうこうしているうちに、下級生から、餅つきを担当した5年生に、突如、以下のお礼状が届いた。予期せぬハプニングにクラスはちょっと騒然となった。二クラス分を以下に示す。

#### <下級生のお礼状>

5年生さんへ

おもちをついてくれてありがとうございます。おいしかったです。つくってくれてありがとう。女子

5年生さんへ

5年生のおもちがおいしかったです。もちをついてくれて本とうにありがとうございます。男子



突然の、下級生からのお礼の手紙贈呈で騒然となる

以上、上記子どもの礼状二種（5年生から町内会の方々へ、下級生から5年生へ）に、子どもが経験しているものを探った。

#### (1) 杵の体験

餅つきでないと使用しない杵は、珍しく扱いなれないだけに、持った時の重さや餅に当たらない難しさ、教わった扱い方のコツやうまく行った時の嬉しさが伝わってきた。ベチャツという音がし



て「こんな音なるんだな」と驚いたことや「杵に餅がついた時に餅が跳ね返ってくる感じがおもしろく楽しかった」と、体で感じたことを表現していた。

## (2) 自分達でついた餅のおいしさ

「もちもちですごく伸びて」「家で食べるお餅よりおいしかった」「もちをちぎるのは大変だったけれど、その分、おいしかった」など、自分達でついた餅ならではのおいしさを味わった。何でも簡単に手に入る昨今、自分達が手をかけたものに愛着を感じていた。

## (3) 貴重な体験への感謝

なかなかできない体験をさせていただいたことへの感謝はもちろん、つきだしたのは8:40だが、その準備は6:30から始まっていたことに触れ、「杵でたたいた時、ピチャッと良い音がして朝早くから準備してくださっていたことを感じました」「僕たちがまだ眠っている間に朝早く準備をしてくださってありがとうございます」など、早朝からの準備にも心配りのある言葉が記され、見えないところでも支えられていることを実感していた。また来年も来てほしいだけでなく、来年の5年生にも体験させてほしいなど自分が体験したことを他者（下級生）にも繋ぐなど下級生にも配慮があった。

## (4) 地域の方との触れ合い

「最初どきどきしていたけれど、やさしく「杵はこうもって右足を前に出して」と声をかけていただきうれしかったです。お餅をつく時は「うまい」と言っていただいて、とても褒めていただいて嬉しかった」など、町内会役員という地域の大人とのかかわりで嬉しい気持ちになったことが記されていた。

## 7. 受け入れ側の学校の思い

時期的にもインフルエンザの季節で学校の方がやや及び腰のところがあるかもしれない。町内会には平素から助けていただいており、「やらにゃー、校長」というところがある。教員も準備は大変だが、せっかくの有意義な機会を取りやめるという気はまったくなく、こうすればできるということで今年はこの形での実施になった。全児童が参加すると時間的にも長くなる [校長先生談]。昨年まで全校児童が参加していて、急にこういう形になり、なぜ今年、自分達はできないのかという声はないのかという私の問いには、餅つきの最中には、特にないということであったが、その後、そうこうしている間に、去年は自分達もお餅を食べられたのにどうして今年はないのかという子(会場をのぞきにきた4年生)がいたとのことであった [教頭先生談]。

O氏は、なぜ5年生だけになったのかと首を傾げていたので、このことを伝えると、大変なら前日からでも何でもやってあげるのにと言っていた。1日を授業で構成する学校、授業への生かし方、

万全に行う責任は学校も同様だ。

## 8. 終わりに

行事は日常生活にメリハリをもたらす。中でも、食べることに関する場合は華やぎがある。立ち込めるもち米を蒸す匂い、母親と一緒に杵を振り下ろすなど、すべてが非日常。この特別な時空間を用意してもらったこと、そこで地域の大人と触れ合って地域の中の自分を感じる。地域の厚意で楽しい・有意義な思いをしたことは、人のためにすることを受け手として体験することだ。同時に、餅について年少者に振る舞うことは町内会の方々から受けたことを年少者に返しているとも言える。自分たちは町内会の方々にお礼状を書いていたが、下級生は自分たちにお礼状を手渡してくれた。予期せず、お礼状を持参した下級生を取り囲んだ賑わいと驚きは、感謝されることの嬉しさの表現のように思う。子ども達の笑顔のためにと始まったこの餅つきだが、単なる受け手ではなく、<他者の(笑顔)のために>が循環している。

### 【引用文献】

- (1) 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領, 12  
<http://www.shinkyousha.com/files/libs/177/201807191004142537.pdf> (情報取得 2022/9/14)
- (2) 金澤妙子 (2022) 地域との連携と子どもが口にするもの—ある町内会の幼稚園での餅つきの取り組みから—, 教育学研究紀要, 13, 51-68
- (3) 土川五郎 (1932) 餅つき, 幼児の教育, 32 (1), 日本幼稚園協会, 68-72
- (4) 倉橋惣三 (2008) 倉橋惣三文庫① 幼稚園真諦, フレーベル館, 23
- (5) 斉藤芳子 (1986) 自然とのふれあい (その 2) —草餅つき—, 幼児の教育, 85 (11), 日本幼稚園協会, 28-29
- (6) 内藤博夫 (1983) 餅つきの復活 (近況・随筆) お茶の水地理, 24, お茶の水地理学会, 71-72
- (7) 川西正子他 (2006~2007) 雑穀を素材として用いた保育所・幼稚園での食育プログラムの開発,
- (8) 米子市立福米東小学校 (1980) 米づくりから餅つきまで,  
<https://iss.ndl.go.jp/books/R100000096-I005939085-00> (情報取得 2022/9/7)
- (9) 農水協論説委員会 (1986) 都会の子に餅つきは必要か—「農業の教育力を考える」, 現代農業, 65 (11), 46-51 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1574231875531595520> (情報取得 2022/9/7)
- (10) 室谷雅美 (2008) 公民館における子ども居場所づくりに関する事例研究, 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集, 60 (0), 126
- (11) 韓国民団大阪府八尾支部 (2019) 師走の八尾の風物詩 第 12 回「大餅つき大会 in 八尾」: 年齢・国境を超え笑顔あふれる交流風景, Korea today: monthly visual message magazine, 44 (1), ANC 社 /Korea today, 58-60 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1521136280837833216> (情報取得 2022/9/7)
- (12) 李秀夫 (2019) 現場からのレポート 地域の皆さんと餅つき大会, 更生保護/日本更生保護協会 編, 70 (1), 日本更生保護協会 38-41 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1522543655323299584> (情報取得 2022/9/7)
- (13) フィールドワークノートから (第 28 回) 健康支える直売所の餅つき (2018), 厚生福祉, (6416), 時事通信社, <https://cir.nii.ac.jp/crid/1521699229976296448> (情報取得 2022/9/7)
- (14) 中尾健一郎 (2013) 地域交流行事の効果について—椎木町餅つき交流会を事例として—, 長崎短期大学研究紀要, 25, 33-43 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1050564287605747072> (情報取得 2022/9/7)
- (15) 伊藤しげ子他 (2007) 地域とあゆむ, 日本農村医学学会学術総会抄録集, 56 (0), 一般社団法人日本農村医学学会, 27 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1390001205517617024>
- (16) 成田亮子・加藤和子・長尾慶子他 (2006) 本学学生の餅の摂取状況に関する調査, 日本調理科学会大会研究発表要旨集, 18 (0), 153
- (17) 山口敦子 菊地和美 (2007) 食文化の視点から見た調理器具の保有状況, 日本調理科学会大会研究発表要旨集, 19 (0), 日本調理科学会, 135

- (18) 小沢信男 "電気餅ツキ器" についてなど (今日の文化・状況と批判=生活), 月刊社会党, (156), 日本社会党中央本部機関紙局, 98-103 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1523951029540667904> (情報取得 2022/9/7)
- (19) こんなことやってます!! 食協事業 茨城県常陸大宮支所編 (2020) 手洗いと衛生管理に留意し、楽しい餅つき大会をしよう: 令和元年度食品衛生指導員活動優秀支部・支所表彰受賞, 食と健康, 64 (1), 日本食品衛生協会, 32-35 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1521417754864906880> (情報取得 2022/9/7)
- (20) 大阪市保健所 食品衛生監視課 (2006) 小学校の餅つき大会におけるノロウイルス食中毒, 食品衛生学雑誌= Food hygiene and safety science, 47 (5), 日本食品衛生学会 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1520572358664608768> (情報取得 2022/9/7)
- (21) 有信裕子 (2001) 餅つき大会でぎっくり腰に - 不当な公務外は許せない, 労働と健康/大阪労災職業病対策連絡会 [編], 27 (6), 24-27 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1520010381013366016> (情報取得 2022/9/7)
- (22) 森岡康祐 (1999) 餅つき機による手指切断 4 症例の検討, 日本マイクロサージャリー学会誌, 12 (1), 30-35 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1570291225351979520> (情報取得 2022/9/7)

#### 【注】

- (注 1) 本テーマに端を発する一連の研究は以下のようにまとめてきた。
- ・「子どもが口にするものをめぐる保育実践の検討」(2006) 保育の実践と研究, 10 (4), 46-79
  - ・「子どもが口にするものをめぐる保育実践の検討—2006.4～2007.12の事例を中心に—」(2016), 大東文化大学紀要, 54 (社会科学), 31-46
  - ・「子どもが口にするものをめぐる保育実践の検討—平成 20 年 1 月～平成 21 年 12 月の事例を中心に—」(2017), 教育学研究紀要, 7, 19-40
  - ・「子どもが口にするものをめぐる保育実践の検討—平成 27 年 4 月～平成 28 年 12 月の事例を中心に—」(2018), 大東文化大学紀要, 56 (社会科学), 263-280
  - ・「地域との連携と子どもが口にするもの—ある町内会の幼稚園での餅つきの取り組みから—」(2022), 教育学研究紀要, 13, 51-68
- (注 2) Google 検索をすると 13 件の餅つきの取り組みが上がった。小学校での餅つきの取り組みのまとめ(本稿のもとになったもの)を校長先生に見ていただいた際、やりとりしたなにげない言葉(つぶやき)、教えていただいたことは、この年の餅つきについての O 氏の言葉(つぶやき)と再度すり合わせて考えてみる必要に気づかせてくれた。紙面の都合上、この点におけるこの餅つきの意味は、次稿で考えてみたい。その際に、13 件を提示したいので、詳細はここでは省いた。

#### 【謝 辞】

インタビューに応じてくださった O 氏はじめ町内会の皆様、当該保育園の歴代の三人の園長先生方、観察の申し出を快く受け入れてくださった A 市立小学校の先生方、饒舌に餅つきへの思いを教えてくれた 5 年生のみなさん、率直に統括責任者としての思いを語ってくださった校長先生に心より感謝申し上げます。また、町内会長さん以下、メンバーの方々や小学校の現場の先生方には、写真撮影や学会発表はじめ、まとめの公表についても快く許可していただき、遅まきながら今日にいたりしました。心より感謝申し上げます。

#### 【付 記】

本稿は、日本子ども社会学会第 25 回大会で発表したものに加筆・修正し、まとめたものである。